

研究結果報告書

古代平安京における疫病流行の史的研究

所属： 浙江工商大学 日本語言文化学院
役職： 講師
氏名： 董 科

本研究は、古代平安京における伝染病流行の実態を明らかにすることを目的としたものである。研究成果は下記通り。

(1) 「古代日本における異常気象・都市生活環境と疫病流行について
—平安京を中心に—」

この部分では、歴史学の視点から日本古代における植物の異常に関する史料を解読し、植物の異常開花/結実のある年に都市部で発生しやすい疫病流行を取り上げ、異常気象、都市生活の環境と疫病流行との関連性について考察した。この部分の研究を通して、以下の4点が明らかになった。

- ① 古代日本における植物の異常開花/結実は、暖冬と冷夏、秋季の多雨と云った異なる2種類の異常気象がもたらした結果である。
- ② 記録の上では、7世紀～12世紀の日本における植物の異常開花/結実記録は数十回確認されるが、疫病流行との関連性が指摘されるようになったのは、平安京成立以降である。
- ③ 異常気象下での平安京における疫病流行は、都市生活者の増加による衛生環境の悪化と異常気象という二つの原因が折り重なって発生したものである。
- ④ 当時の平安京は、赤痢などの消化器系感染症が流行し易い衛生環境にあり、さらには、天然痘やインフルエンザといった海外の疫病/伝染病が日本に持ち込まれた時期であり、都市を中心に大流行した。それ以降、疫病/伝染病として日本に定着した可能性が高い。

(2) 「古代平安京における疫病流行について」

この部分では、古代平安京ではどんな疫病がいつ流行したのか、またその原因と社会に与える影響は何かを解明した。この部分では、以下の点が明らかになった。

- ① 古代平安京においては、天然痘・インフルエンザ・麻疹・マラリア・赤痢・流行性耳下腺炎と寄生虫症などの流行が確認された。
- ② 流行したこれらの疫病のなかでも、天然痘・インフルエンザ・麻疹が当時の日本に最も大きな影響をもたらした。
- ③ 都市部での疫病流行予防策として、疫病祭祀や仏教的な祈祷などが行なわれていたが、これらは次第に儀式化され、日本文化そのものとして定着していった。その結果、今もなお現代日本人の生活の中に根付いているのである。

以上

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

- (1) 董科「古代日本における異常気象・都市生活環境と疫病流行について—平安京を中心に—」、中国日本歴史文化研究会、浙江大学世界歴研究所主催、2013年9月17日

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

- (1) 董科「古代日本における異常気象・都市生活環境と疫病流行について—平安京を中心に—」
『東アジア文化交渉研究』第7号、2014年3月31日
- (2) 董科「古代平安京における疫病流行について」
(2014年12月投稿予定)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)